

豊かな体験活動推進事業関東ブロック交流会研究発表校

利根沼田学校組合立利根商業高等学校

1 学校紹介

利根商業高等学校は昭和33年学校法人として設立されました。その後昭和48年に9市町村からなる、全国でも3例しかない組合立の高等学校になりました。北に谷川岳、南に赤城山を望み、学校は利根川の清流を見おろす台地にあります。上越新幹線の上毛高原駅や関越自動車道の月夜野インタ - チェンジができて、町も学校も昔と違い徐々に様相を変えています。現在、各学年7クラス、812人の生徒を擁し「自主自律」を校訓として、知・徳・体のバランスのとれた人間形成を理想に、「全人教育」を目指しています。生徒は活気ある雰囲気の中で勉学に励み、部活動も大変盛んです。

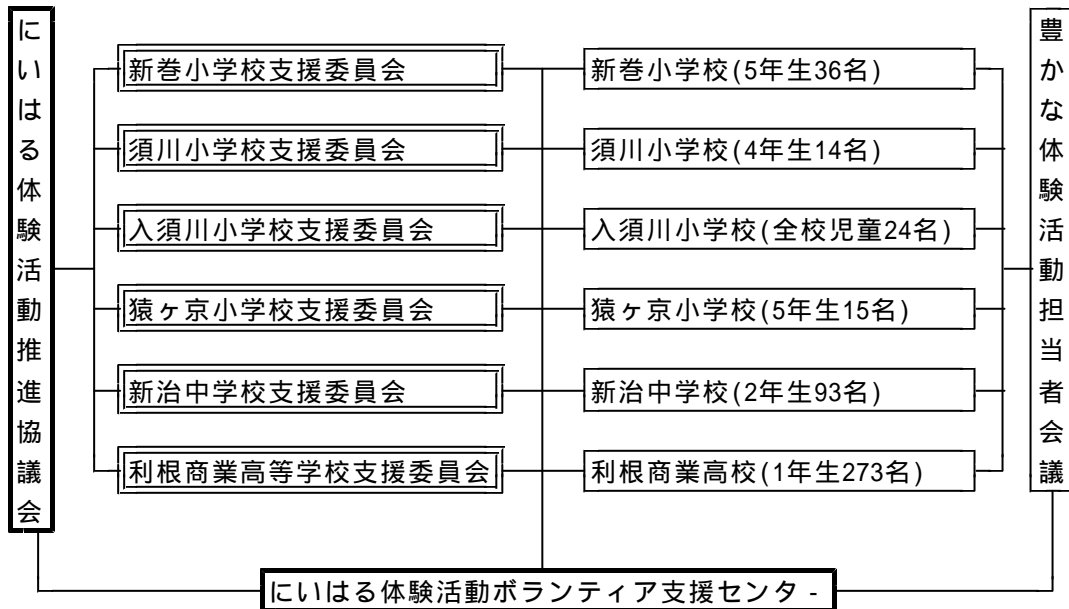
2 推進地域の特性・状況と本校の目標

推進地域に指定された新治村は県北部の山間地に位置し、産業は農業と観光業が中心です。三国猿ヶ京温泉郷や須川平のたくみの里などの観光地を有し、農産物は、米やりんご、野菜などが多く、農業と観光を結びつけた村づくりを行っています。しかし、近年は都市化・少子高齢化の波が押し寄せてきており、また農業離れが目立つ中において、児童生徒の自然体験や農業体験などは十分でなく、体験活動推進事業は意義あることと思われます。

本校では新治村の活動に合わせて、学校と社会（家庭、地域、教育行政）が相互に協力・連携し、生徒の多様な体験活動を推進することで、社会性や豊かな人間性を高めることを目標に活動を行っています。

3 本校の組織と取り組みについて

(1) にはる体験活動推進協議会

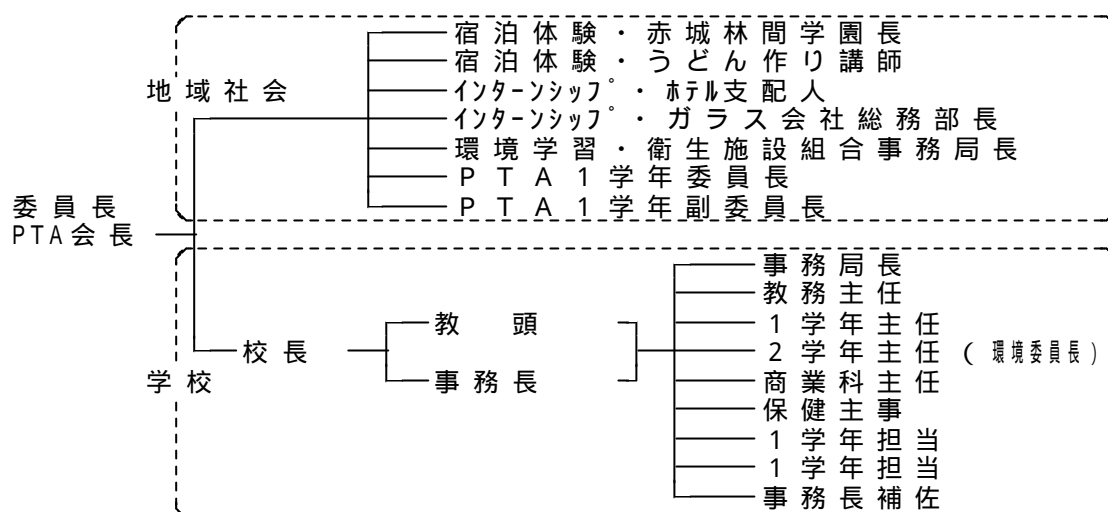


インターンシップ体験発表会



クリーンアップ運動スローガン

(2) 本校の体験活動支援委員会組織



○ 学校支援委員会の活動の概要

- ・ 6月25日...第1回学校支援委員会
- ・ 1月28日...第2回学校支援委員会

成 果・ にはいる体験活動ボランティア支援センターを通し情報が容易に入り計画がスムーズに実行できた。
 ・ 本校は通学圏が広範囲であるが地域社会との連携、協力体制が徐々にできている。

課 題・ 地域の幅広い関係機関・団体等連携する体制を整える必要がある。

4 本校の活動内容 (対象学年 1学年273名)

○ 宿泊体験活動	3日	特別活動(学校行事)
○ インタ-ンシップ	3日	商業(流通経済)の授業の一環
○ 環境問題に関わる活動	1日	特別活動
・ 校外クリーンアップ運動	0.5日	(年間通して実施)HR活動
・ ゴミ処理システム見学・校内環境学習発表会	0.5日	特別活動

(1) 宿泊体験活動(HR合宿・自然体験)

期 間 4月23日(火)~4月25日(木)

場 所 赤城林間学園・横浜市少年自然の家(利根郡昭和村糸井)

目 的 ・ 個人の役割や責任感を培い、協力の精神を学ぶ。
 ・ 秩序ある団体行動を学ぶ。
 ・ 生徒間の相互理解を深め、クラスの和を図る。

内 容 ・ 歩行訓練(往復20kmを徒歩により移動)
 ・ 校歌指導
 ・ 野外炊事(手打ちうどん作り)



手打ちうどん作り

成 果 ・ HR合宿を通して担任と生徒、及び生徒同士の理解が深まり、有意義な学年活動ができるようになってきた。
 ・ 入学間もない時期に往復20kmを歩くことで、生徒同士がうち解ける事ができ、お互いを知る良い機会になった。
 ・ 粉からの「うどん」作りは初めての生徒が多く、出来上がりは上手くいかなかった。しかし、それぞれに工夫し昼食時には自分達で作った物が食べられた感激は忘れられない、大変有意義な体験活動であった。

- ・自然環境の中で自分を見つめたり、集団の中で自分の存在を知ったことが有意義であった。
- ・HR合宿の実施日が早いため、なるべく早期に担当者を決め、実施案の作成に取り組む必要がある。
- ・体験的な学習をさらに多く取り入れるよう、内容を検討した方が良い。(生徒自身が工夫し、体験できるものを取り入れる)
- ・入学後まもない時期なのでHR単位のプログラムを多く取り入れる必要がある。

(2) インタ - ンシップ

期 間 10月2日(水)～10月4日(金)

場 所 協力事業所(利根郡・沼田市・渋川市・前橋市)

- 目 的
- ・社会人として必要な礼儀を身につける。
 - ・将来の職業選択の準備
 - ・働くことの尊さや意義を知る。
 - ・将来の生き方を決定する能力を養う。
 - ・郷土愛を育てる。
 - ・今後の学習活動に生かす。



パン工場

- 内 容
- 実施に向けての準備
 - ・体験を依頼する事業所の選定
 - ・前年度の事業所の確認及び新規事業所の開拓
 - ・生徒への説明(意義、目的、協力事業所等)
 - ・体験希望事業所の調査
 - ・事業所を決定し正式に依頼
 - ・保険加入(3日間)
 - 事前の学習
 - ・マナ - を身に付け、心構えを持つ
 - ・事業所を知る。
 - 就業体験
 - ・安全に、意義深く取り組む。
 - ・入社から退社までを体験する。
 - ・教職員による巡回指導を行う。
 - 事後指導等
 - ・評価表を作成し、挨拶や服装・態度など生徒の評価を各事業所に依頼する。
 - ・事業所のアンケート結果から次年度対策を行う。
 - ・体験感想文をもとに校内発表会をする。
- 成 果
- ・社会人として必要な礼儀、マナ - を実社会の中で体験でき、社会人としての自覚が持てた。
 - ・1年生で実施することにより、より早い将来の進路選択の動機付けができた。
 - ・地元産業への関心が持てた。
 - ・学校と企業の信頼関係ができた。
 - ・企業の人に対して感謝の気持ちもてた。
 - ・生徒の多面的な理解がより可能となった。(教師の側から)
 - ・生徒の「やり遂げた」という達成感が感じ取れた。
- 課 題
- ・インタ - ンシップの教育課程上の位置付け
(本校では商業科目「流通経済」の授業時間としてカウントしている)
 - ・社会人としての自覚を持たせる指導方法の工夫
 - ・継続的な受け入れ先企業の確保
 - ・企業が行う生徒の評価方法の見直し



生花店

- ・生徒の希望職種に沿った受け入れ先企業の開拓
- ・体験させたことをどのように学校生活に生かし、学習意欲を高めていくか。
- ・受け入れ先企業が多岐にわたるため、企業と学校との綿密な連絡体制作りの必要性
- ・進路を決定するまでに、再度の職場体験の必要性
- ・事前、事後指導の一層の充実

(3) 環境問題に関わる活動

内 容 ○ 「環境学習ノート」の作成(5月)

○ 校外クリーンアップ運動

〔 学校周辺で15コースを設定
全21クラスが年間2回実施 〕

○ 教科・科目の授業における環境学習

1年 世界史、保健

2年 地理、化学、保健、生活一般

3年 倫理、生物、生活一般、課題研究

○ 「第4回ぐんま環境フェスティバル」への参加

○ 講演会 演題「地球環境と身近な環境問題」

○ 奥根アメニティパーク(ゴミ処理施設)施設見学

○ 環境学習発表会

・作文優秀者を表彰

・環境問題に関する研究発表

成 果 ・生徒が未来の環境問題に漠然と抱いていた不安感を講演や教科指導を通して知識として明確にすることができた。

・身近にできる取り組みや、生活様式等を学ぶことで、我々の活動が環境問題解決のための世界的動きの中に位置づけられている事が理解できた。

・環境問題解決のために生徒ができる実践活動としてクリーンアップ作戦を実施した。生徒の感想からは、「町をきれいにすることやゴミを分別することの楽しさ、そして町の人から『ご苦労様』と言われたうれしさなど」が伝わってきた。以上のことから、生徒の実践力や意識を向上させることができた。

・ゴミ処理施設を見学し、自分達の出したゴミの処理方法を学び、分別の大切さやゴミを出さないライフスタイルなどを学んだ。

・全校で環境学習の発表会を行い、ゴミ問題に一層関心が高まった。

課 題 ・平成15年度入学生の教育課程に準拠した新しい「環境学習ノート」を作成すること。

・クリーンアップ作戦の結果集めたゴミを材料に発見や学習的な要素を加えていくこと。

・「課題研究」の授業において、今年度の積み重ねを生かした作品の完成。

・地域社会との連携の充実



空き缶の分別

5 今後の活動について

様々な体験活動を通じて、生徒は普段の学校生活では予想できないすばらしい面をたくさん見せてくれました。しかし、学校と社会(家庭、地域、教育行政)との連携がまだまだ不十分で、生徒にきめ細かな指導ができず、生徒が具える能力をのばしきれないという課題も残りました。この反省点を生かして、本校の体験活動の目標でもある「社会性や豊かな人間性を高めること」を目指し、今後はさらに学校と社会との連携を深め、体験活動を充実させていけるよう取り組んでいきたいと考えています。